

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900309		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家醍醐 1号館		
所在地	京都府京都市伏見区醍醐新町裏町5-1		
自己評価作成日	令和4年7月22日	評価結果市町村受理日	令和4年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiryouCd=2690900309-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普段の食事や食に関する行事・レクリエーションで楽しんで頂いています。テイクアウトや食材購入し調理する等、普段と違った食事を楽しんで頂いています。誕生日会等で、パースデイクッキーを用意し皆さんと一緒に祝いもしています。また美容レクを取り入れ、ネイルやメイク、ハンドマッサージやフットマッサージにも定期定期に来て頂き取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2014年12月開設の当事業所は、1階に小規模多機能型居宅介護事業所とグループホーム1ユニット、2階にグループホーム2ユニットがあります。周囲に隋心院等の名所旧跡や民家が立ち並ぶ閑静な立地です。コロナ禍で行けなくなった初詣には、職員が神社の鳥居を手作りし、正月気分を味わいます。花見には一人ずつ交替で出かけ、花見弁当に季節感を味わいます。縮小しながらも、節分・秋祭り等の行事をこなし、楽しみを減らさないように工夫し、その様子は月々の便りで家族にいらせています。法人は社員教育に力を注ぎ、職員全員がリーダーとなれる人材育成を目指し、技能実習生にも母国語を交えた研修や、チューター制度をとり入れ、職員の介護力・人間力の向上を図っています。当事業所での看取りを希望される利用者や家族も多く、この1年で5名を看取っています。また、ご夫婦での入居、以前は親子での入居(お一人ご逝去)など、近しい親族が別室に入られている例もあります。信頼できる開業医や訪問看護師の24時間の医療サポート体制のもとで、楽しいことも悲しいことも共有しながら、安心して過ごせるのが当事業所の利点です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を含むコンプライアンスマニュアルを読み上げています。各ユニットで年度目標を立てフロアに掲示しています。	会社の年度初めに合わせ、9つの法人理念をもとに、「生活向上リハビリ」「認知症緩和」「地域交流」を主軸としたケアビジョンに、事業所ごとの具体策を盛り込み、フロアに提示して日々の実践に活かしている。職員は業務開始前にコンプライアンスマニュアルを読み、確認報告書に押印してから業務に臨んでいる。今年度の各ユニット目標をフロアに大きく掲示し、意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外部との制限がある中ですが、移動式ローソンで毎朝の牛乳やヨーグルトを購入しています。	コロナ禍により、殆ど活動は出来ていないが、醍醐寺万灯会の灯ろう作りに参加したり、2ヶ所から移動販売車が来て、おやつ・日用品等の購入をしている。来所や電話での地域の認知症相談に応じている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所の回覧板から地域情報を得ている。また、消防訓練の日時を地域に知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同一建物内の小規模多機能型サービス事業所と連携させてもらい、当事業所のことも発信させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括のケアマネージャー様や町内会長様にも参加して頂き、事業所の現状報告をさせて頂き、ご意見も頂戴していましたが、現状コロナ禍で事業所内での会議と送付による報告になっています。	対面開催はコロナ禍により出来ていないが、入居者の利用状況・職員体制・行事・研修・事故報告・面会についての連絡事項や行事写真等を書面で詳しく報告し、行政や地域包括支援センター、家族等に配布している。	書面会議としての記録体裁を整え、本来参加される民生委員の方にも報告書を配布するよう期待します。また、事業所からの一方的な情報発信ではなく、地域包括支援センターや家族等の意見も事前に聴取し、相互交流されるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状、市町村担当の方と積極的な関係は取り組めておりません	事故報告を行政に届け出る等、必要時に連携している。WEB研修等の案内もあるが、時間がなく、参加していない。消防訓練で消防署の立ち合いや指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画で年2回は、身体拘束防止の研修に取り組んでおります。	2か月に1回の運営推進会議の後に身体拘束委員会を実施し、議事録に残している。WEB研修(CTレーニング)で個々の職員に問題が見つかれば、上長の面接や本社の再研修を受け、一定の水準に達するまで指導やテストを受ける。技能実習生には母国語を交えた研修カリキュラムを用い周知を図っている。申し送りノート上部に「言葉遣いは荒くなっていませんか？」等の文言を入れて自省を促している。帰宅願望のある方も家族との電話で落ち着かされたりする。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画で年2回は、高齢者虐待防止の研修に取り組んでおります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画の中で取り組んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時に、ご本人・ご家族に説明させて頂き、ご理解頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議の場で頂いた、ご意見等を反映させて頂き、会議録にて回答を送付させて頂いております	本人からは食べ物や外出の要望があり、食べたい物は実現している。外出は、コロナ禍での制限により、少人数の花見以外殆ど実現出来ていない。家族からの、「本人が寒がりなので夏も長袖を着せてほしい」、「宅配の花を飾ってほしい」等の要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	奇数月の第3火曜日に運営推進会議を、実施しております	ユニット会議や全体会議で職員意見を述べる機会があり、日頃からユニットリーダー等が種々の相談に応じている。予算の割振り、役割分担等をしながら、行事計画を立て、各自責任を持って行動している。人事考課面談では、勤務の希望や異動希望を言える他、本社が各職員宛てに満足度調査をして、意向を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット職員の状況を見ながら、上長に情報提供し、職場環境の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画と個別フォローアップ研修に参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国展開している中、研修等で別事業所のスタッフとの交流があります。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、ご本人とご家族にアセスメントさせて頂き、ケアプランを作成。お要望等も聞かせて頂き、関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に、ご本人とご家族にアセスメントさせて頂き、ケアプランを作成。お要望等も聞かせて頂き、関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前に、ご本人とご家族にアセスメントさせて頂き、ケアプランを作成。お要望等も聞かせて頂き、関係づくりに努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に合った役割作り等、職員と共に出来ることに取り組み、共同生活を送れるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活のご様子等、毎月送付させて頂いたり、連絡を取り合いながら、支援が充実する様に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃、使い慣れたもの等、危険性が無ければ持ち込んで頂いております。コロナ禍で外出を中止しておりますが、基本的には外出の制限は御座いません。	定期的に友人や家族が面会に来てくれる方、以前の教え子が会いに来てくれる方等がある。WEB面会や、制限付きの面会等、その時々状況を見ながら面会の仕方を工夫している。また電話や手紙の支援もしている。ラジオ体操や嚙下体操、塗り絵、歌などの趣味、洗濯物干しや洗濯物畳み等の生活習慣の維持、ベランダの花の水遣り、美容レクリエーションでマニキュア、フットマッサージ等を楽しむ方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ユニットでご利用者同士の関係性を把握しながら、テーブルの席の配置を決めたり、共同作業が出来る様な配置を考慮しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、継続しての関係性が出来ておりません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のカンファレンスやモニタリング、ユニット会議で、思いや希望の把握に努めております。	本人が要望を伝えられる方は本人から意向を聞き、伝えられない方は家族等からの聞き取りや日々の言動から推察・把握し、職員間で情報を共有している。入居時とその後6か月ごとにアセスメントをして、介護計画に反映させている。その間に変化があれば、随時アセスメントを更新している。おいしいものが食べたいという要望があり、別予算で高級な肉を買って食べることもある。	本人とはよく話し、詳細な意向把握の上で援助方針を立てていますが、アセスメント表(ケアチェック表)の「本人の訴えや希望」欄への記載が乏しいように思われます。本人の意向を記録し、本人と援助者双方の思いの折り合ったアセスメントであることを明示されるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントや入居後、ご家族からのヒヤリングで把握する様に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のカンファレンスやモニタリング、ユニット会議で、思いや希望の把握に努めております。		

京都府 グループホーム たのしい家醍醐 1号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のカンファレンスやモニタリング、ユニット会議や、ご本人、ご家族のヒヤリング等で、計画作成者がケアプランを作成しております。	毎月のユニット会議で個別の状況について話し、計画変更の必要があれば変更をしている。計画更新前には各職員に用紙を渡し、更新対象者の介護計画をモニタリングしてもらい、計画作成者がそれを取り纏めてモニタリング用紙に記載している。計画は通常6か月ごとに更新するが、状態が変われば6か月以内でも随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	デンシカルテにて個別記録を行い、スタッフ間の情報共有と共に、日々のカンファレンスで評価・見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の状況に応じて、訪問マッサージや訪問美容レクへの参加など行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の清掃等、職員と一緒に参加しておりますが現状、中止です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関として往診医もおられますが、基本的には、ご本人・ご家族の希望に沿っております。	現在は全員が同じクリニックの訪問診療月2回と、24時間のサポートを受けている。訪問看護師が週1回訪問し、医師とも連携している。他科受診には、家族が付き添うが、個々の事情により事業所が付き添う場合もある。歯科や歯科衛生士も来所し、診療や口腔ケアにあたり、必要な方は訪問マッサージも利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回、看護師の方に来て頂いて、往診医と医療連携を図って頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族の希望される医療機関の把握と、往診医との連携で、スムーズな対応に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前に重度化や終末期の指針を説明させて頂いております。往診医からも状態に合わせ、生活の方針の提示を行って頂いております。	重度化対応・終末期ケア対応に係る指針により、条件が合えば看取りも可能であることを明示し、医師や関係者や家族と何度も確認書を交わし、看取りを進めている。職員は毎年看取りのWEB研修を受け、研鑽を深めている。コロナ禍ではあるが、例外的に居室に入ってもらい、臨終に間に合った家族もおられる。この1年で5人看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って行動できるように、実践にて訓練しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の小規模多機能型事業所とも連携し、地域防災訓練の参加や避難訓練を実施しています。	年2回併設事業所と合同で消防訓練を実施し、1回目の夜間想定では、消防署立ち合いのもと、通報・消火・避難誘導をおこない、利用者は非常口やユニット玄関へ避難している。同時にAED操作の指導も受け、全体の講評をもらっている。2回目の10月には消火設備業者が立ち会う予定である。地域との防災訓練は現在できていない。BCPマニュアルは法人が作成中で、作成後は事業所の実態に合わせた訓練を実施していく予定である。備蓄は、1階倉庫に水・おかゆ・ビスケットなど3日分やバッテリーなどを常備している。災害時に地域の人の避難を受け入れる体制はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画で人権等の研修を行っております。	本社からのWEB研修、「接遇」「コンプライアンス」「認知症ケア」などで、尊厳やプライバシーについて学び、報告書を提出している。また、虐待の芽チェックリストでも自らの支援をふり返っている。日々の支援の中で、居室やトイレのドアの開けっ放しなどがあるが、職員同士で注意しあっている。不適切な対応があれば、気がついた職員がリーダーや管理者に伝え、管理者は申し送りなどで全体への注意喚起をしたり、個別に指導する等している。自ら考える力を身につけるよう促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本位のケアが出来る様に各会議の中で、伝達するように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	計画作成者を中心に、ケアの評価と見直しを行い、個別的ケアを実践する様に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある衣類の補充や入れ替えを、ご家族と連携しながら、その人らしい支援努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご使用者が出来る事を把握し、職員や他ご利用者と一緒に出来るように努めております。	ご飯・お粥や汁物は事業所で作り、おかずは業者から届いたものを湯煎して提供している。3食ともパン食の方やおかゆの方等、希望に応じている。おかずも利用者の咀嚼状況に合わせた形状で提供している。月2回、食事レクリエーションとして予算を組み、誕生日祝いでは利用者の希望を聞き、行事に見合った食事やおやつを利用者と共に作り、テイクアウト等も利用している。「ええもん食べたい」の声に応え、握り寿司や肉、おせち料理や恵方巻、花見弁当、うなぎ弁当、クリスマス料理などを楽しみ、炊飯器を使った手作りケーキや寒天、たこ焼き、焼きそば、2種類のカレーを味わうカレーパーティなどを楽しんでいる。献立表は家族にも送っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別的ケアプランに沿って、日々の食事量・水分量のinoutを記録し、評価しながら支援に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別的に毎食後の口腔ケアに努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別的ケアプランに沿って、日々の排泄状況を記録し、評価しながら支援に努めております。	排泄パターンを把握し、利用者の様子も見ながら、気持ちの良い排泄ができるように支援している。変化や気づきは、素早く職員間で共有し、状況によっては介護計画にもあげて対応している。入居前には筋力低下や、介護事情によって排泄がうまくできていなかった利用者が、入居後に職員の観察や支援でトイレでの排泄がスムーズにできるようになった例がある。夜間も極力トイレで排泄できるように支援している。	

京都府 グループホーム たのしい家醍醐 1号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療や管理栄養士との連携も図りながら、食事内容の工夫等、排便コントロールに努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状、個々に沿った入浴支援は出来ておりません。	週2回を基本に、希望により増回もできる。主に午前中であるが、職員体制により午後入浴もできる。2人介助の方もおられる。湯温や量の希望を聞き、シャンプー類も希望の物が使用でき、足ふきマットは都度替えている。同性介助も可能で、一人ひとりが職員と会話をしながらリラックスして入浴できるように支援している。拒否の方には、時間を変えたり、職員を変えたりして対応し、無理強いないようにしている。季節のしょうぶ湯やゆず湯を楽しみ、時には入浴剤を使用する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に合わせ、日中も休息時間を設けるなど、個別的に取り組んでおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携を図り、薬剤師から情報共有を行い適切な支援に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別的にアセスメントを行い、趣味嗜好を把握しながら、楽しみある生活になるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の現状、外出中止となっております。	一時期、近場の花見に行けた時もあったが、今は法人の考えで外出はしていない。ベランダに出たり、敷地内の畑に出て外気浴をしている。事業所にコンビニやスーパーの移動販売車が定期的に来ているが、今は職員に頼んで購入してもらっている。また、家族との外出や職員との買い物も制限され、必要な物は家族に届けてもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	当事業所の現状、ご利用者の金銭管理等、困難な状態です。		

京都府 グループホーム たのしい家醍醐 1号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケアスタッフで電話や手紙の、やり取りをサポートしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に危険なものを置かない様にしております。季節感のある飾りを、職員とご利用者で作成し、飾りつけをしております。	南側に大きな窓があり、リビング全体が明るい。広めの空間に、テーブル3台を等間隔に配置し、会話や食事、お茶、様々なレクリエーション、体操、テレビ視聴などを楽しんでいる。看取りの方も居室からリビングの様子が見えるように、ドアを開けて食事の介助を受けておられる。足元には物を置かないようにし、利用者の行動の妨げにならないよう配慮している。壁にはちぎり絵作品や、口腔体操の歌詞、利用者や職員で作った季節の飾り物などが掲示されている。空気清浄機を備え、週5日はクリーンスタッフに清掃をしてもらっている。汚れた時は職員が都度おこなっている。窓際のソファで寛がれる方もあり、部屋にいと寂しいと言いつ、多くの方がリビングに集っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方に合った過ごし方が出来る様に、席の配置や日課等を決めたりしております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に危険性が無ければ、持ち込みの制限はありません。ご本人、ご家族と情報共有に努めております。	居室の入口横の壁に部屋番号と名前プレートがあり、その下の小スペースに、手作りの干支の飾り物や花の折紙、利用者の写真等が貼ってある。ベッドや空調設備、クローゼットがあり、家から布団類や、整理タンスやテレビ、椅子、仏壇、家族との写真、以前通っていたデイサービスからの寄せ書き等を持ってきている。興味のある本を本棚一杯に並べておられる方や、ジャズを楽しむ方もおられ、各自思い思いの過ごし方をされている。管理者は、持ち込まれた家具類の安全な設置の相談にのっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に危険なものが無いか、確認し安全に努めております。		